

●取扱説明をよくお読みのうえ正しくご使用ください。そのあと保存し、必要なときにお読みください。

●タイヤ・チューブの交換は専用工具や専門知識が必要です。整備士資格のある専門店または専門コーナーに依頼されることをお奨め致します。自分で交換される場合、自転車の種類によって方法が異なりますので、分解・組立方法については自転車メーカーへお問合せください。

ご使用前に

▼この商品は舗装路面専用の自転車用タイヤです。競技や不整地で使用しないでください。

▼この商品は耐摩耗ゴムを採用していますが、摩耗の度合いは使用条件により変化します。使いかたや路面状態によっては早期に摩耗する場合があります。

▼この商品は軽量化のためにアラミド繊維ビードを採用しており、通常のスチールビードと比べビード部が折れ曲がりやすくなっています。リムへの取り付けの際はチューブをかまさないようにじゅうぶん注意して作業を行ってください。

▼交換されるタイヤと同じ表示サイズを確認してください。(例) W/O 26 x 13/8

① リムの種類 (W/O, H/E のいずれか)
② タイヤの直径 (インチ)
③ タイヤの巾 (インチ)

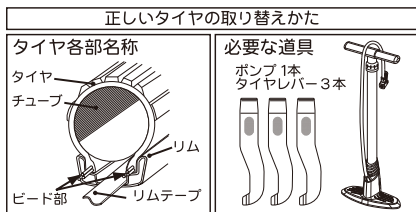
▼タイヤの取りはずしや取り付けには、必ず専用工具のタイヤレバー (別売) を3本使用してください。

※ドライヤーなどを使用するとタイヤやチューブを傷つけます。

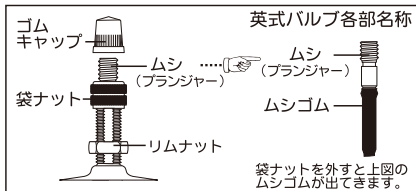
▼タイヤの交換時に、リムテープ (別売) も新しいものと交換してください。

※リムテープとは、スポーク穴をふさぐためのゴムまたは樹脂製のバンドのことです。(下記参照)

▼この取扱説明では、英式バルブ仕様のチューブの取り付け取り方を説明しています。仏式または米式バルブ仕様チューブの場合は取り付け取り方が異なりますのでご購入店または弊社「お客様相談室」へお問い合わせください。



タイヤの取りはずしかた (英式バルブチューブの場合)



- ①バルブのゴムキャップと袋ナット、リムナットをはずし、ムシ (プランジャー) を抜き、空気を抜いてください。※この時ムシゴムが裂けたりひび割れたりしている場合は新品と交換してください。
- ②ビード部にタイヤレバーを10cm位の間隔で1本ずつ差し込み、矢印の方向に倒してください。
- ※このときチューブを傷つけないように、タイヤレバーはビード部のみにかけるように注意。※差し込んだタイヤレバーが外れないようにしっかりとスポークにかける。
- ③リムに沿って20~30cm程度、②の作業を繰り返しながらビード部をはずし、残りのビード部を指ではずしてください。
- ④片側のビード部全体をリムからはずし、バルブ部分を残してチューブを取り出します。
- ⑤タイヤと、チューブのバルブ部分とをいっしょにつかみ上げ、もう片方のビード部をリムからはずします。

安全上のご注意 (必ずお守りください)

警告

- タイヤ装着時リムに油やワックスを使用しない
- 走行中にタイヤがはずれて転倒の原因となります。
- タイヤの空気圧はタイヤに表示されている標準空気圧にしたがう
- パンクによる転倒の原因となります。
- 走行前にタイヤに異物が刺さっていないか点検する
- パンクによる転倒の原因となります。
- 改造はしない
- タイヤが破損して転倒の原因となります。

お願い

- タイヤの空気圧チェックは走行前に必ず行ってください。※空気の入れ過ぎや低圧使用はタイヤの破損やパンク、異常な摩耗の原因となります。必ず標準空気圧に従ってください。
- タイヤ使用後は1年ごとに専門店にて点検を受けてください。
- タイヤが以下の状態になった場合は直ちに交換してください。
 1. 接地面や側面に亀裂、変形、変色がある。
 2. 接地面に偏った摩耗がある。
 3. 接地面ゴムが摩耗しタイヤがスリップする。
- ブレーキゴムがタイヤ側面に当たらないようにしてください。
- 直射日光や雨の当たる場所に置かないでください。
- ストレーなどの熱源の近くに置かないでください。
- ガソリン・有機溶剤・油類のあるところに置かないでください。
- 購入直後の製品でも、在庫の保管期間や状態によっては経年劣化によりタイヤに亀裂を生じたり、変形、変色している場合があります。その際は、直ちに使用を中止しご購入店または弊社「お客様相談室」へご連絡ください。

タイヤの取り付けかた (英式バルブチューブの場合)

- ①はじめに右図のたまたまの状態のタイヤを右図のように円形に開いてください。
- ※折くせがついて伸ばしにくいですが、リムに取り付けやすくするためにしっかりと開くようにしてください。
- ②タイヤにチューブのバルブ部分をはめ込み、リムのバルブ穴にチューブのバルブを通してください。
- ③リムに沿って片側のビード部を徐々にリムにはめてください。
- ※このときチューブをはさまないように注意。
- ④チューブをタイヤの中に入れてください。
- ※このときチューブをねじったり折り曲げたりして、むりにタイヤに押し込まないように注意。
- ⑤もう片方のビード部をバルブの反対側 (図の矢印の位置) からリムに沿って徐々にはめてください。
- ※このときチューブをはさまないように注意。
- ⑥バルブ部分へのビード部はめ込みは、チューブがはさまらないようにバルブを図のようにリムの内側に、2~3回軽く押し込んでください。
- ※ビード部を両側ともはめた後、リムとビードの間にチューブがはさまっていないか両側のビード部を必ず点検してください。そのまま空気を入れるとパンクします。
- ⑦バルブにリムナット、ムシ (プランジャー)、袋ナットの順に取り付けてください。
- ※リムナットを締める際、スパナなどは使わず、必ず指で締めるようにしてください。
- ⑧空気をすこし入れてビード部が全周にわたリムに均一にはまっているか点検してください。均一でないと、タイヤの一部がへこんでしまいます。その場合は、空気を抜き、手でもみながら均一になるように調整します。調整の後、空気を徐々に入れてください。
- ※ポンプの取扱説明書に従って正しく使用してください。
- ⑨空気圧はタイヤ側面に表示された標準空気圧 (推奨空気圧) に従ってください。ゲージがない場合はタイヤを指で押しても簡単にへこまない程度 (軟式野球ボール程度の硬さ) になるまで空気を入れてください。最後にバルブのゴムキャップをつけて終了です。

パナレーサー株式会社
669-3464 兵庫県丹波市水上町石生 250
お客様相談室 0795-82-6806 (通話料有料)
(受付時間 9:00~17:00 ※休業日土日祝祭日を除く)